



# エノス

だい11しょう



**エ**ノスはヤコブのむすこです。お父さんのヤコブがしんだ後、エノスはきんぱんのきろくしゃになりました。(モルモン書ヤコブ7：27)



ある日、エノスは森へかりに行きました。お父さんが教えてくれたことを考えているうちに、エノスは自分のつみをゆるしてほしいと思いました。(エノス1：1-4)



そこでエノスはひざまずき、神にいのりました。一日中のり、夜になってもまだいのっていました。(エノス1：4)



すると神はエノスに、「イエス・キリストをしんじるしんこうにより、あなたのつみはゆるされた」と言われました。(エノス1：5, 8)



エノスは、主にニーファイ人みんなをしゅくふくしてほしいと思いました。エノスがいのると、主はこう言われました。「人びとがいましめをまもるなら、しゅくふくをさすけよう。」(エノス1：9-10)



エノスは、レーマン人もしゅくふくされることをねがいました。エノスが強いしんこうをもっていったので、主はそのねがいを聞きとけようと言われました。(エノス1：11-12)



レーマン人はニーファイ人とたたかって、ニーファイ人やそのきろくをほろぼそうとしましたが、エノスはレーマン人が正しいたみになるようにいのりました。(エノス1：13-14)



エノスは、自分の書いたきろくがまもられるようにいのりました。主は、いつかそのきろくにある教えがレーマン人にもさすけられるとやくそくされました。(エノス1：16)



エノスは、ニーファイ人に教えをときました。ニーファイのたみに神をしんじて、いましめをまもってほしいと思ったからです。(エノス1：10, 19)



ニーファイのたみは、レーマン人にふくいんを教えようとしたが、レーマン人は耳をかそうとしません。レーマン人はニーファイ人をにくんでいました。(エノス1：20)



エノスは生きている間、イエスのことやふくいんについて、ひとひとに教ええました。しょうがい神につかえ、神をあいました。(エノス1：26-27)